

OSP 14418  
US

13869-19US01

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 9月19日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-273351

[ ST.10/C ]:

[ JP2002-273351 ]

出 願 人

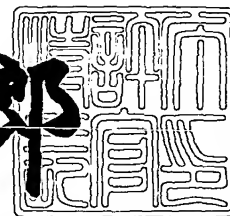
Applicant(s):

本田技研工業株式会社

2003年 6月23日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3049148

【書類名】 特許願

【整理番号】 H102238601

【提出日】 平成14年 9月19日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B60N 2/00

【発明の名称】 車両用シート配列構造

【請求項の数】 4

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 粥見 哲也

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 白勢 治

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 中村 芳則

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 渡辺 晋介

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 小池 欧介

【特許出願人】

【識別番号】 000005326

【氏名又は名称】 本田技研工業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100064908

【弁理士】

【氏名又は名称】 志賀 正武

【選任した代理人】

【識別番号】 100108578

【弁理士】

【氏名又は名称】 高橋 詔男

【選任した代理人】

【識別番号】 100101465

【弁理士】

【氏名又は名称】 青山 正和

【選任した代理人】

【識別番号】 100094400

【弁理士】

【氏名又は名称】 鈴木 三義

【選任した代理人】

【識別番号】 100107836

【弁理士】

【氏名又は名称】 西 和哉

【選任した代理人】

【識別番号】 100108453

【弁理士】

【氏名又は名称】 村山 靖彦

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 008707

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9705358

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 車両用シート配列構造

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 前から一列目が左右両側に配置される一対の第 1 側部シートとこれら第 1 側部シートの間に配置される第 1 中央シートとを有し、前から二列目が左右両側に配置される一対の第 2 側部シートとこれら第 2 側部シートの間に配置される第 2 中央シートとを有する車両用シート配列構造において、

前記第 1 中央シートは前記一対の第 1 側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、

前記一対の第 1 側部シートは前記第 1 中央シートと前端部同士を合わせた位置から前方範囲でのみ前後スライド可能とされており、

前記第 1 中央シートの幅は前記一対の第 1 側部シートのそれぞれの幅よりも狭くされていることを特徴とする車両用シート配列構造。

【請求項 2】 前記第 2 中央シートは前記一対の第 2 側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、

前記一対の第 2 側部シートは位置固定とされており、

前記第 2 中央シートの幅は前記一対の第 2 側部シートのそれぞれの幅よりも狭くされていることを特徴とする請求項 1 記載の車両用シート配列構造。

【請求項 3】 前記一対の第 2 側部シートおよび前記第 2 中央シートは荷室の直前位置に設けられており、

前記第 2 中央シートをそのシートバックを前倒させた状態で前方の低位のフロアに落とし込むことにより、該第 2 中央シートのシートバックから前記荷室のフロアまで略平坦な逆 T 字状のフロアを形成して該逆 T 字状のフロア上に逆 T 字状のスペースを形成することを特徴とする請求項 1 または 2 記載の車両用シート配列構造。

【請求項 4】 前記第 1 中央シートのシートバックを前倒させることにより、前記逆 T 字状のフロアを前記第 1 中央シートのシートバックまで前方に延長して前記逆 T 字状のスペースを前記第 1 中央シートのシートバック上まで前方に延

長することを特徴とする請求項 3 記載の車両用シート配列構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、車両用シート配列構造に関する。

【0002】

【従来の技術】

車両用シート配列構造に関する技術として、例えば特許文献 1 に記載されたものがある。

【0003】

【特許文献 1】

実開昭 5 6 - 8 3 5 3 7 号公報

【0004】

上記特許文献 1 には、前から一列目が左右両側に配置される一対の側部シートとこれら側部シートの間に配置されるこれらと同幅の中央シートとを有し、前から二列目が左右両側に配置される一対の側部シートとこれら側部シートの間に配置されるこれらと同幅の中央シートとを有する構造が記載されている。そして、この構造においては、中央シートは一対の側部シートと一列状をなした状態から後方にスライド可能とされ、一対の側部シートは位置固定とされている。これは、同列の側部シートおよび中央シートを V 字状にレイアウト可能とすることで、乗員同士の肘や肩の干渉を防止して、乗員に窮屈な思いをさせないようにするものである。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

上記特許文献 1 に記載された技術では、前から一列目の側部シートが位置固定であるため、体格の異なる運転者が乗車する場合、運転者によっては運転しにくくなってしまうという問題がある。

【0006】

ところで、小型乗用車両においても、使い勝手性向上等の観点から 6 人乗りを

可能とすることが望まれており、上記のようなV字状のシートレイアウトを採用することが、乗員同士の干渉を防止する上で有効である。しかしながら、小型乗用車両では、単純にV字状のレイアウトを可能とするだけでは、例えば6人乗車以外のときに主に乗員が着席する側部シートの幅が狭くなり、座り心地が悪くなってしまうという問題があった。6人乗車が可能であっても6人が乗車することの頻度は非常に低いことから、このように頻度の低い6人乗車のために圧倒的に頻度の高い少人数乗車時の座り心地を犠牲にすることは好ましくない。また、三人掛けのシートをV字状にレイアウトすることが可能であったとしても、乗員がそのことを知らずにいて、窮屈な感じを受け適当にシートをスライドさせてもこのようなレイアウトにできない場合があれば、諦めて窮屈なまま我慢してしまう可能性がある。

## 【0007】

したがって、本発明は、運転者が運転しにくくなることを防止でき、また少人数乗車時の座り心地が犠牲になることも防止できて、さらに適当にシートをスライドさせるだけでV字状のレイアウトが可能となる車両用シート配列構造の提供を目的とする。

## 【0008】

## 【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、請求項1に係る発明は、前から一列目が左右両側に配置される一対の第1側部シート（例えば実施の形態における第1側部シート11）とこれら第1側部シートの間に配置される第1中央シート（例えば実施の形態における第1中央シート16）とを有し、前から二列目が左右両側に配置される一対の第2側部シート（例えば実施の形態における第2側部シート21）とこれら第2側部シートの間に配置される第2中央シート（例えば実施の形態における第2中央シート26）とを有する車両用シート配列構造において、前記第1中央シートは前記一対の第1側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、前記一対の第1側部シートは前記第1中央シートと前端部同士を合わせた位置から前方範囲でのみ前後スライド可能とされており、前記第1中央シートの幅は前記一対の第1側部シートのそれぞれの幅よりも

狭くされていることを特徴としている。

【0009】

これにより、一列目の一対の第1側部シートが前後スライド可能とされているため、運転者の体格に合わせて前後位置を調節することができる。

【0010】

また、一列目において、第1中央シートは一対の第1側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、一対の第1側部シートは第1中央シートと前端部同士を合わせた位置から前方範囲でのみ前後スライド可能とされているため、三人掛けをしたとき、乗員がV字状のレイアウトができることを知らずにいた場合でも、窮屈な感じを受けて適当にシートをスライドさせれば確実にV字状のレイアウトになる。

【0011】

さらに、一列目において、第1中央シートおよび一対の第1側部シートは互いの前端部同士を合わせることができるため、第1中央シートが第1側部シートに対しずれていないレイアウトにできる。

【0012】

加えて、第1中央シートの幅は一対の第1側部シートのそれぞれの幅よりも狭くされているため、少人数乗車時の使用頻度が高い第1側部シートの幅を確保できる。

【0013】

以上により、第1中央シートの幅を狭くするとともに第1側部シートの幅を広くすることで、小型乗用車両の制限されたスペース内での6人乗りを可能とするとともに、V字状のレイアウトによって乗員同士の干渉を防止して快適な6人乗りを可能とする。

【0014】

請求項2に係る発明は、請求項1に係る発明において、前記第2中央シートは前記一対の第2側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、前記一対の第2側部シートは位置固定とされており、前記第2中央シートの幅は前記一対の第2側部シートのそれぞれの幅よりも狭くされ



ていることを特徴としている。

【 0 0 1 5 】

これにより、二列目においても、第 2 中央シートは一对の第 2 側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、一对の第 2 側部シートは位置固定とされているため、三人掛けをしたとき、乗員が V 字状のレイアウトができることを知らずにいた場合でも、窮屈な感じを受けて第 2 中央シートの乗員が適当にシートをスライドさせれば確実に V 字状のレイアウトになる。

【 0 0 1 6 】

さらに、第 2 中央シートおよび一对の第 2 側部シートも互いの前端部同士を合わせることができるため、第 2 中央シートも第 2 側部シートに対しずれていないレイアウトにできる。

【 0 0 1 7 】

加えて、第 2 中央シートの幅是一对の第 2 側部シートのそれぞれの幅よりも狭くされているため、少人数乗車時の使用頻度が高い第 2 側部シートの幅を確保できる。

【 0 0 1 8 】

以上により、第 2 中央シートの幅を狭くするとともに第 2 側部シートの幅を広くすることで、小型乗用車両の制限されたスペース内での 6 人乗りを可能とするとともに、V 字状のレイアウトによって乗員同士の干渉を防止して快適な 6 人乗りを可能とする。

【 0 0 1 9 】

請求項 3 に係る発明は、請求項 1 または 2 に係る発明において、前記一对の第 2 側部シートおよび前記第 2 中央シートは荷室（例えば実施の形態における荷室 3 0）の直前位置に設けられており、前記第 2 中央シートをそのシートバック（例えば実施の形態におけるシートバック 2 8）を前倒させた状態で前方の低位のフロア（例えば実施の形態における低位フロア 3 1）に落とし込むことにより、該第 2 中央シートのシートバックから前記荷室のフロアまで略平坦な逆 T 字状のフロア（例えば実施の形態における逆 T 字状のフロア 6 6）を形成して該逆 T 字

状のフロア上に逆T字状のスペース（例えば実施の形態における逆T字状のスペース67）を形成することを特徴としている。

【0020】

このように、第2中央シートをそのシートバックを前倒させた状態で前方の低位のフロアに落とし込むことで、第2中央シートのシートバックから荷室のフロアまで略平坦な逆T字状のフロアを形成してこの逆T字状のフロア上に逆T字状のスペースを形成することになるため、長尺物を収納する場合にこれを良好に収納することができる等、使い勝手が向上する。

【0021】

請求項4に係る発明は、請求項3に係る発明において、前記第1中央シートのシートバックを前倒させることにより、前記逆T字状のフロアを前記第1中央シートのシートバックまで前方に延長して前記逆T字状のスペースを前記第1中央シートのシートバック上まで前方に延長することを特徴としている。

【0022】

このように、第1中央シートのシートバックを前倒させることで、逆T字状のフロアを第1中央シートのシートバックまで前方に延長し逆T字状のスペースを第1中央シートのシートバック上まで前方に延長することになるため、さらに長い長尺物を収納する場合にこれを良好に収納することができる等、使い勝手がさらに向上する。

【0023】

【発明の実施の形態】

本発明の一実施形態の車両用シート配列構造を図面を参照して以下に説明する。なお、以下の説明において用いる前後左右は車体における前後左右である。

【0024】

本実施形態の車両用シート配列構造は、図1に示すように、前から一列目が左右両側に配置される一対の第1側部シート11とこれら第1側部シート11の間に配置される第1中央シート16とを有する3人掛けとされ、前から二列目も左右両側に配置される一対の第2側部シート21とこれら第2側部シート21の間に配置される第2中央シート26とを有する3人掛けとされ、二列目の直後位置

に荷室 30 が設けられた 6 人乗りのものである。

【0025】

前から一列目の左右一対の第 1 側部シート 11 は、それぞれ、シートクッション 12 とシートクッション 12 の後端側に連結されたシートバック 13 とを有しており、それぞれ単独で、シートクッション 12 の下側に設けられたスライド機構 14 によって前後スライド可能となっている。なお、これら第 1 側部シート 11 は左右方向の幅を含めて同じ大きさとなっている。また、これら第 1 側部シート 11 はスライド機構 14 による前後スライドの範囲が互いに一致している。

【0026】

一列目の両第 1 側部シート 11 の間に設けられる第 1 中央シート 16 は、両第 1 側部シート 11 のそれぞれの左右方向幅よりも幅狭とされている。第 1 中央シート 16 は、シートクッション 17 とシートクッション 17 の後端側に連結されたシートバック 18 とを有しており、シートクッション 17 の下側に設けられたスライド機構 19 によって単独で前後スライド可能となっている。なお、第 1 中央シート 16 のシートバック 18 は、シートクッション 17 に全体的に載置されるように前倒可能とされている。また、第 1 中央シート 16 は、第 1 側部シート 11 に対し、左右方向の幅以外は実質的に同じ大きさとなっている。

【0027】

ここで、第 1 中央シート 16 はスライド機構 19 による前後スライドの範囲が第 1 側部シート 11 のスライド機構 14 によるスライド範囲に対し後側にずれており、第 1 中央シート 16 は一対の第 1 側部シート 11 と前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、一対の第 1 側部シート 11 は第 1 中央シート 16 と前端部同士を合わせた位置から前方範囲でのみ前後スライド可能とされている。また、第 1 中央シート 16 のスライド機構 19 によるスライド範囲は、第 1 側部シート 11 のスライド機構 14 によるスライド範囲よりも大きく設定されている。

【0028】

具体的には、図 1 に二点鎖線で示すように、一対の第 1 側部シート 11 をスライド機構 14 により前端位置に位置させるとともに第 1 中央シート 16 をスライ

ド機構19により前端位置に位置させると、一对の第1側部シート11よりも第1中央シート16が所定量後側にずれることになり、V字レイアウトとなる。

【0029】

また、図1に実線で示すように両側の第1側部シート11をスライド機構14により後端位置に位置させるとともに、図1に二点鎖線で示すように第1中央シート16をスライド機構19により前端位置に位置させると、図2にも示すように、両側の第1側部シート11と第1中央シート16とが前後に位置を合わせる直線状のレイアウトになる。

【0030】

さらに、図1に二点鎖線で示すように両側の第1側部シート11をスライド機構14により前端位置に位置させるとともに、図1に実線で示すように第1中央シート16をスライド機構19により後端位置に位置させると、一对の第1側部シート11よりも第1中央シート16が所定量後側にずれることになり、V字レイアウトとなる。このとき、シートバック13、18の角度を合わせた状態では、第1中央シート16の乗員の肩が第1側部シート11の乗員の肩から完全に離間するように第1中央シート16のスライド機構19によるスライド量が設定されている。

【0031】

加えて、図1に実線で示すように、両側の第1側部シート11をスライド機構14により後端位置に位置させるとともに第1中央シート16をスライド機構19により後端位置に位置させると、図3にも示すように、一对の第1側部シート11よりも第1中央シート16が所定量後側にずれることになり、V字レイアウトとなる。このときも、シートバック13、18の角度を合わせた状態では、第1中央シート16の乗員の肩が側部シート11の乗員の肩から完全に離間するように第1中央シート16のスライド機構19によるスライド量が設定されている。

【0032】

つまり、第1中央シート16が後端位置に位置する状態では、第1側部シート11の位置に拘わらず常に第1中央シート16の乗員の肩が第1側部シート11

の乗員の肩から完全に離間する設定となる。

【0033】

前から二列目の左右一対の第2側部シート21は、それぞれ、シートクッション22とシートクッション22の後端側に連結されたシートバック23とを有しており、位置固定すなわち前後スライド不可となっている。なお、これら第2側部シート21は左右方向の幅を含めて同じ大きさとなっている。また、二列目の第2側部シート21の左右方向幅は、一列目の第1側部シート11の左右方向幅よりも若干幅狭となっている。

【0034】

二列目の両第2側部シート21の間に設けられる第2中央シート26は、両第2側部シート21のそれぞれの左右方向幅よりも幅狭とされており、一列目の第1中央シート16の左右方向幅よりも若干幅広となっている。また、第2中央シート26の左右方向の中央位置は第2中央シート16の左右方向の中央位置と左右方向で一致している。第2中央シート26は、シートクッション27とシートクッション27の後端側に連結されたシートバック28とを有しており、シートクッション27の下側に設けられたスライド機構29によって単独で前後スライド可能となっている。なお、第2中央シート26は、第2側部シート21に対し、左右方向の幅以外は実質的に同じ大きさとなっている。

【0035】

ここで、第2中央シート26はスライド機構29による前後スライドの範囲が位置固定の第2側部シート21から後側に延びており、第2中央シート26は一対の第2側部シート21と前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされている。

【0036】

具体的には、図1に二点鎖線で示すように、第2中央シート26をスライド機構29により前端位置に位置させると、図2にも示すように、両側の第2側部シート21と第2中央シート26とが前後に位置を合わせる直線状のレイアウトになる。

【0037】

また、図 1 に実線で示すように、第 2 中央シート 2 6 をスライド機構 2 9 により後端位置に位置させると、一対の第 2 側部シート 2 1 よりも第 2 中央シート 2 6 が所定量後側にずれることになり、図 3 にも示すように、V 字レイアウトとなる。このとき、シートバック 2 3、2 8 の角度を合わせた状態では、第 2 中央シート 2 6 の乗員の肩が第 2 側部シート 2 1 の乗員の肩から完全に離間するように第 2 中央シート 2 6 のスライド機構 2 9 によるスライド量が設定されている。

## 【 0 0 3 8 】

次に、二列目の第 2 中央シート 2 6 についてさらに説明する。

二列目の第 2 中央シート 2 6 は、図 4 に示すように、車室内における車体前側の低位フロア 3 1 と、この低位フロア 3 1 より高い車体後側の高位フロア 3 2 とが隣接して構成される段差フロア 3 3 に設けられている。

## 【 0 0 3 9 】

ここで、第 2 中央シート 2 6 のシートバック 2 8 は、クッション性を有し乗員の背部を支承するシートバック本体 3 5 と、このシートバック本体 3 5 を保持するシートバックフレーム 3 6 とを有している。

## 【 0 0 4 0 】

また、第 2 中央シート 2 6 のシートクッション 2 7 は、クッション性を有し乗員の臀部を支承するシートクッション本体 3 8 と、このシートクッション本体 3 8 を保持するシートクッションフレーム 3 9 とを有している。

## 【 0 0 4 1 】

そして、高位フロア 3 2 上には、図 5 にも示すように、車体前後方向に沿うスライドレール 4 1 が左右に離間して一対設けられており、これらスライドレール 4 1 は、それぞれ前後方向にのみスライド可能に摺動部 4 2 を保持している。これらスライドレール 4 1 および摺動部 4 2 はスライド機構 2 9 を構成している。

## 【 0 0 4 2 】

シートバックフレーム 3 6 は略長形状の枠部 4 4 と、枠部 4 4 の長さ方向における一側の左右両側に、枠部 4 4 から長さ方向に沿って外側に延出するように固定された一対の支持部 4 5 とを有しており、これら支持部 4 5 の延出先端側には、左右方向に中心軸線を配置した回動軸 4 6 がそれぞれ設けられている。そし

て、これら回動軸 4 6 が、両側の摺動部 4 2 にそれぞれ支持されている。これにより、シートバックフレーム 3 6 は回動軸 4 6 を中心に略鉛直に沿う立設状態から前傾可能となっており、このシートバックフレーム 3 6 の枠部 4 4 に支持されるシートバック本体 3 5 を含むシートバック 2 8 が、全体として、回動軸 4 6 を中心に略鉛直に沿う立設状態から前傾可能となっている。

【 0 0 4 3 】

以上の結果、スライドレール 4 1 で案内されてスライドする摺動部 4 2 にシートバック 2 8 が前傾可能に軸支されている。

【 0 0 4 4 】

シートバックフレーム 3 6 の立設状態において両支持部 4 5 の回動軸 4 6 よりも所定量上側となる位置には、左右方向に中心軸線を配置した支持軸 4 8 がそれぞれ取り付けられている。そして、これら支持軸 4 8 には、シートクッションフレーム 3 9 の後部が回動可能に軸支されている。すなわち、シートクッションフレーム 3 9 は、各支持軸 4 8 からそれぞれ下方に延出したのち前方に延出する一対の延出部 4 9 と、これら延出部 4 9 の延出先端側を連結させる左右方向に沿う連結部 5 0 とを有するコ字状をなしている。そして、このシートクッションフレーム 3 9 の若干連結部 5 0 側にシートクッション本体 3 8 が支持される。

【 0 0 4 5 】

シートクッションフレーム 3 9 の前端の連結部 5 0 には、左右一対の支持部材 5 2 が取り付けられており、これら支持部材 5 2 には、左右方向に中心軸線を配置した回動軸 5 3 がそれぞれ設けられている。これら回動軸 5 3 にはリンクアーム 5 5 の一端が回動可能に連結されている。すなわちリンクアーム 5 5 は回動軸 5 3 から延出する一対の延出部 5 6 と、これら延出部 5 6 の延出先端側を連結させる左右方向に沿う連結部 5 7 とを有するコ字状をなしている。

【 0 0 4 6 】

そして、低位フロア 3 1 には、リンクアーム 5 5 の先端側の連結部 5 7 を着脱可能に連結させるとともに連結状態において連結部 5 7 を回動可能に支持する着脱支持部 5 9 が取り付けられている。

【 0 0 4 7 】

以上の結果、シートクッションフレーム39の前部である連結部50が低位フロア31とリンク結合されている。

【0048】

ここで、上記したように、一对の第2側部シート21および第2中央シート26は、これら一对の第2側部シート21および第2中央シート26の全体の左右方向の幅と略同幅を有する荷室30の直前位置に設けられている。なお、第2中央シート26の後側には、第2中央シート26の背面60に当接可能な当接板61が中央シート26よりも後方の荷室30の平坦な荷室フロア62に揺動可能に連結されている。

【0049】

上記した平坦な荷室フロア62は、一对の第2側部シート21および第2中央シート26より後側にあつて、これらと左右方向の幅を略一致させており、第2中央シート26の立設状態のシートバック28の背面60に傾斜状態で当接する当接板61の部分が除かれたU字状をなしている。

【0050】

なお、図9に示すように、一列目の一对の第1側部シート11および第1中央シート16は、低位フロア31の前方のさらに低位のフロア69に配置されている。

【0051】

次に、上記第2中央シート26の作動について説明する。

まず、通常の乗員が着座可能な着座状態について図4および図6を参照して説明する。

【0052】

着座状態においては、シートバック28が立設状態で図示せぬロック機構により摺動部42に対し固定されている。また、リンクアーム55の連結部57は着脱支持部59に連結されている。なお、ロック機構はシートバック28を着座可能な着座姿勢で摺動部42に固定可能および固定解除可能となっている。

【0053】

この着座状態において、摺動部42がスライドレール41に沿って摺動する。



ここで、摺動部 4 2 は、スライドロック機構 6 3 によりスライドレール 4 1 に対し複数の位置において固定可能および固定解除可能となっている。

#### 【 0 0 5 4 】

そして、摺動部 4 2 が、例えば図 4 に示すようにスライド範囲の後端位置に位置する状態から図 6 に示すようにスライド範囲の前端位置に位置する状態まで高位フロア 3 2 に固定されたスライドレール 4 1 に案内されてスライドすると、摺動部 4 2 に固定された状態のシートバック 2 8 はそのままの姿勢でスライドする一方、シートバック 2 8 の支持軸 4 8 に回動可能に連結されたシートクッション 2 7 は、前部の回動軸 5 3 に回動可能に連結されたリンクアーム 5 5 を、着脱支持部 5 9 に支持された連結部 5 7 を中心に回動させることにより、前部側を若干円弧状の軌跡を描かせるように上下させながらスライドする。また、後方にスライドする場合は上記とは逆の作動を行う。

#### 【 0 0 5 5 】

以上により、前後スライドする際に、シートバック 2 8 は高位フロア 3 2 のスライドレール 4 1 で案内される摺動部 4 2 に軸支され、またシートクッション本体 3 8 を支持するシートクッションフレーム 3 9 は、シートバック 2 8 に後部が軸支されるとともに前部が低位フロア 3 1 にリンク結合されているため、フロアから自由に持ち上がることなく、安定して前後移動できる。

#### 【 0 0 5 6 】

次に、ダイブダウン収納状態について説明する。

摺動部 4 2 が、図 6 に示すようにスライド範囲の前端位置に位置する状態で、ロック機構によるロックを解除すると、図示せぬスプリングの付勢力でシートバック 2 8 が回動軸 4 6 を中心に回動して前倒する。すると、シートバック 2 8 において回動軸 4 6 よりも上側に位置していた支持軸 4 8 が前側かつ下側に移動し、その結果、図 7 に示すように、シートクッションフレーム 3 9 は、支持軸 4 8 に連結されている後部側が前側かつ下側に移動するとともに、前部の回動軸 5 3 に回動可能に連結されたリンクアーム 5 5 が着脱支持部 5 9 に支持された連結部 5 7 を中心に前傾することで、前部側も前側かつ下側に移動し、その結果、全体

として前側かつ下側に移動して、保持するシートクッション本体 38 を前側かつ下側に移動させて低位フロア 31 側に落とし込む。このとき、シートバック 28 はシートクッション 27 に重なり合って背面 60 が略水平となる。これに合わせて、中央シート 26 の背面 60 に当接する当接板 61 も略水平となる。

## 【0057】

このように、第2中央シート 26 をそのシートバック 28 を前倒させて前方の低位フロア 31 に落とし込んだ状態では、当接板 61 と中央シート 26 のシートバック 28 の背面 60 とが略水平になることで、荷室フロア 62 と当接板 61 の上面 65 とシートバック 28 の背面 60 とが略平坦となり、図 8 に示すように、第2中央シート 26 のシートバック 28 から荷室フロア 62 まで略平坦な平面視逆 T 字状のフロア 66 を形成する。その結果、この逆 T 字状のフロア 65 上に図示せぬ車体ルーフまでの逆 T 字状のスペース 67 を形成することになる。

## 【0058】

ここで、一列目の第1中央シート 16 のシートバック 18 をシートクッション 17 上に載置されるまで前倒させると、図 9 に示すように、低位フロア 31 の前方のさらに低位のフロア 69 に設けられた一列目の第1中央シート 16 は、そのシートバック 18 の背面 70 が第2中央シート 26 のシートバック 28 の背面 60 と略平坦面をなすことになり、図 10 に示すように、上記した逆 T 字状のフロア 66 を第1中央シート 16 のシートバック 18 まで前方に延長した形状の逆 T 字状のフロア 71 を形成することができる。その結果、この逆 T 字状のフロア 71 上に、上記逆 T 字状のスペース 67 を前方に延長した逆 T 字状のスペース 72 を図示せぬ車体ルーフまで形成することになる。

## 【0059】

なお、図示を略すが、第2中央シート 26 においては、シートバック 28 を立設状態とし、リンクアーム 55 を着脱支持部 59 から取り外してシートクッション 27 を支持軸 48 を中心に回動させて、シートバック 28 に立てかけることも可能である。このとき、リンクアーム 55 は自重により下方に延在する状態となる。

## 【0060】

また、図示を略すが、シートベルトのインナーアンカーをスライドレール 4 1 で案内される摺動部 4 2 に取り付けることにより、シートベルト取付点がスライド位置に左右されなくなるので、シートベルトのフィット感がスライドしても常に得られることになる。

## 【 0 0 6 1 】

以上に述べた本実施形態によれば、一列目の一对の第 1 側部シート 1 1 が前後スライド可能とされているため、運転者の体格に合わせて前後位置を調節することができる。したがって、運転者が運転しにくくなることを防止することができる。

## 【 0 0 6 2 】

また、一列目において、第 1 中央シート 1 6 は一对の第 1 側部シート 1 1 と前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、一对の第 1 側部シート 1 1 は第 1 中央シート 1 6 と前端部同士を合わせた位置から前方範囲でのみ前後スライド可能とされているため、三人掛けをしたとき、乗員が V 字状のレイアウトができることを知らずにいた場合でも、窮屈な感じを受けて適当に第 1 側部シート 1 1 あるいは第 1 中央シート 1 6 をスライドさせれば確実に V 字状のレイアウトになる。二列目においても、第 2 中央シート 2 6 は一对の第 2 側部シート 2 1 と前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、一对の第 2 側部シート 2 1 は位置固定とされているため、三人掛けをしたとき、乗員が V 字状のレイアウトができることを知らずにいた場合でも、窮屈な感じを受けて第 2 中央シート 2 6 の乗員が適当にこれをスライドさせれば確実に V 字状のレイアウトになる。したがって、適当にシートをスライドさせるだけで確実に V 字状のレイアウトが可能となる。よって、小型乗用車両においても、V 字状のレイアウトによって乗員同士の干渉を防止しつつ快適な 6 人乗りが可能となる。

## 【 0 0 6 3 】

さらに、一列目において、第 1 中央シート 1 6 および一对の第 1 側部シート 1 1 は互いの前端部同士を合わせることができ、第 2 中央シート 2 6 および一对の第 2 側部シート 2 1 も互いの前端部同士を合わせることができるため、第 1 中央

シート 1 6 が第 1 側部シート 1 1 に対しずれていない直線状のレイアウトにでき、第 2 中央シート 2 6 が第 2 側部シート 2 1 に対しずれていない直線状のレイアウトにできる。したがって、これらのレイアウトにすれば、停車中に乗員が第 1 中央シート 1 6 および一对の第 1 側部シート 1 1 に横たわって休憩したり、第 2 中央シート 2 6 および一对の第 2 側部シート 2 1 に横たわって休憩したりする際に、良好に横たわることができる。

#### 【0 0 6 4】

加えて、第 1 中央シート 1 6 の幅是一对の第 1 側部シート 1 1 のそれぞれの幅よりも狭くされるとともに、第 2 中央シート 2 6 の幅是一对の第 2 側部シート 2 1 のそれぞれの幅よりも狭くされているため、少人数乗車時の使用頻度が高い第 1 側部シート 1 1 および第 2 側部シート 2 1 の幅を確保できる。したがって、圧倒的に頻度の高い少人数乗車時の座り心地が犠牲になることを防止できる。

#### 【0 0 6 5】

また、高位フロア 3 2 に配置された第 2 中央シート 2 6 をそのシートバック 2 8 を前倒させた状態で前方の低位フロア 3 1 に落とし込むことで、第 2 中央シート 2 6 のシートバック 2 8 から荷室フロア 6 2 まで略平坦な平面視逆 T 字状のフロア 6 6 を形成してこの逆 T 字状のフロア 6 6 上に車体ルーフまでの平面視逆 T 字状のスペース 6 7 を形成することになるため、長尺物を収納する場合にこれを良好に収納することができる等、使い勝手が向上する。

#### 【0 0 6 6】

加えて、第 1 中央シート 1 6 のシートバック 1 8 を前倒させることで、シートバック 1 8 まで前方に延長した平面視逆 T 字状のフロア 7 1 を形成してこの逆 T 字状のフロア 7 1 上に車体ルーフまでの平面視逆 T 字状のスペース 7 2 を形成することになるため、さらに長い長尺物を収納する場合にこれを良好に収納することができる等、使い勝手がさらに向上する。

#### 【0 0 6 7】

#### 【発明の効果】

以上詳述したように、請求項 1 に係る発明によれば、一列目の一对の第 1 側部シートが前後スライド可能とされているため、運転者の体格に合わせて前後位置

を調節することができる。したがって、運転者が運転しにくくなることを防止することができる。

【 0 0 6 8 】

また、一列目において、第 1 中央シートは一对の第 1 側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、一对の第 1 側部シートは第 1 中央シートと前端部同士を合わせた位置から前方範囲でのみ前後スライド可能とされているため、三人掛けをしたとき、乗員が V 字状のレイアウトができることを知らずにいた場合でも、窮屈な感じを受けて適当にシートをスライドさせれば確実に V 字状のレイアウトになる。したがって、適当にシートをスライドさせるだけで確実に V 字状のレイアウトが可能となる。

【 0 0 6 9 】

さらに、一列目において、第 1 中央シートおよび一对の第 1 側部シートは互いの前端部同士を合わせることができるため、第 1 中央シートが第 1 側部シートに対しずれていないレイアウトにできる。したがって、このレイアウトにすれば、停車中に乗員が第 1 中央シートおよび一对の第 1 側部シートに横たわって休憩する際に、良好に横たわることができる。

【 0 0 7 0 】

加えて、第 1 中央シートの幅は一对の第 1 側部シートのそれぞれの幅よりも狭くされているため、少人数乗車時の使用頻度が高い第 1 側部シートの幅を確保できる。したがって、圧倒的に頻度の高い少人数乗車時の座り心地が犠牲になることを防止できる。

【 0 0 7 1 】

以上により、第 1 中央シートの幅を狭くするとともに第 1 側部シートの幅を広くすることで、小型乗用車両の制限されたスペース内での 6 人乗りが可能になるとともに、V 字状のレイアウトによって乗員同士の干渉を防止して快適な 6 人乗りが可能となる。

【 0 0 7 2 】

請求項 2 に係る発明によれば、二列目においても、第 2 中央シートは一对の第 2 側部シートと前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能

とされ、一对の第2側部シートは位置固定とされているため、三人掛けをしたとき、乗員がV字状のレイアウトができることを知らずにいた場合でも、窮屈な感じを受けて中央シートの乗員が適当にシートをスライドさせれば確実にV字状のレイアウトになる。したがって、適当にシートをスライドさせるだけで確実にV字状のレイアウトが可能となる。

## 【0073】

さらに、第2中央シートおよび一对の第2側部シートも互いの前端部同士を合わせることができるため、第2中央シートが第2側部シートに対しずれていないレイアウトにできる。したがって、このレイアウトにすれば、停車中に乗員が第2中央シートおよび一对の第2側部シートに横たわって休憩する際に、良好に横たわることができる。

## 【0074】

加えて、第2中央シートの幅是一对の第2側部シートのそれぞれの幅よりも狭くされているため、少人数乗車時の使用頻度が高い第2側部シートの幅を確保できる。したがって、圧倒的に頻度の高い少人数乗車時の座り心地が犠牲になることを防止できる。

## 【0075】

以上により、第2中央シートの幅を狭くするとともに第2側部シートの幅を広くすることで、小型乗用車両の制限されたスペース内での6人乗りが可能になるとともに、V字状のレイアウトによって乗員同士の干渉を防止して快適な6人乗りが可能になる。

## 【0076】

請求項3に係る発明によれば、第2中央シートをそのシートバックを前倒させた状態で前方の低位のフロアに落とし込むことで、第2中央シートのシートバックから荷室のフロアまで略平坦な逆T字状のフロアを形成してこの逆T字状のフロア上に逆T字状のスペースを形成することになるため、長尺物を収納する場合にこれを良好に収納することができる等、使い勝手が向上する。

## 【0077】

請求項4に係る発明によれば、第1中央シートのシートバックを前倒させるこ

とで、逆T字状のフロアを第1中央シートのシートバックまで前方に延長し逆T字状のスペースを第1中央シートのシートバック上まで前方に延長することになるため、さらに長い長尺物を収納する場合にこれを良好に収納することができる等、使い勝手がさらに向上する。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造を示す平面図である。

【図2】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造の一状態を示す斜視図である。

【図3】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造の別の状態を示す斜視図である。

【図4】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造に使用された第2中央シートを示すものであって、後端位置に位置する状態を示す側面図である。

【図5】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造に使用された第2中央シートを示す斜視図である。

【図6】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造に使用された第2中央シートを示すものであって、前端位置に位置する状態を示す側面図である。

【図7】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造に使用された第2中央シートを示すものであって、ダイブダウン収納状態を示す側面図である。

【図8】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造を示すものであって、第2中央シートのダイブダウン収納状態を示す平面図である。

【図9】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造を示すものであって、第2中央シートのダイブダウン収納状態および第1中央シートの前倒状態を示す側面図である。

【図10】 本発明の一実施形態の車両用シート配列構造を示すものであって、第2中央シートのダイブダウン収納状態および第1中央シートの前倒状態を示す平面図である。

【符号の説明】

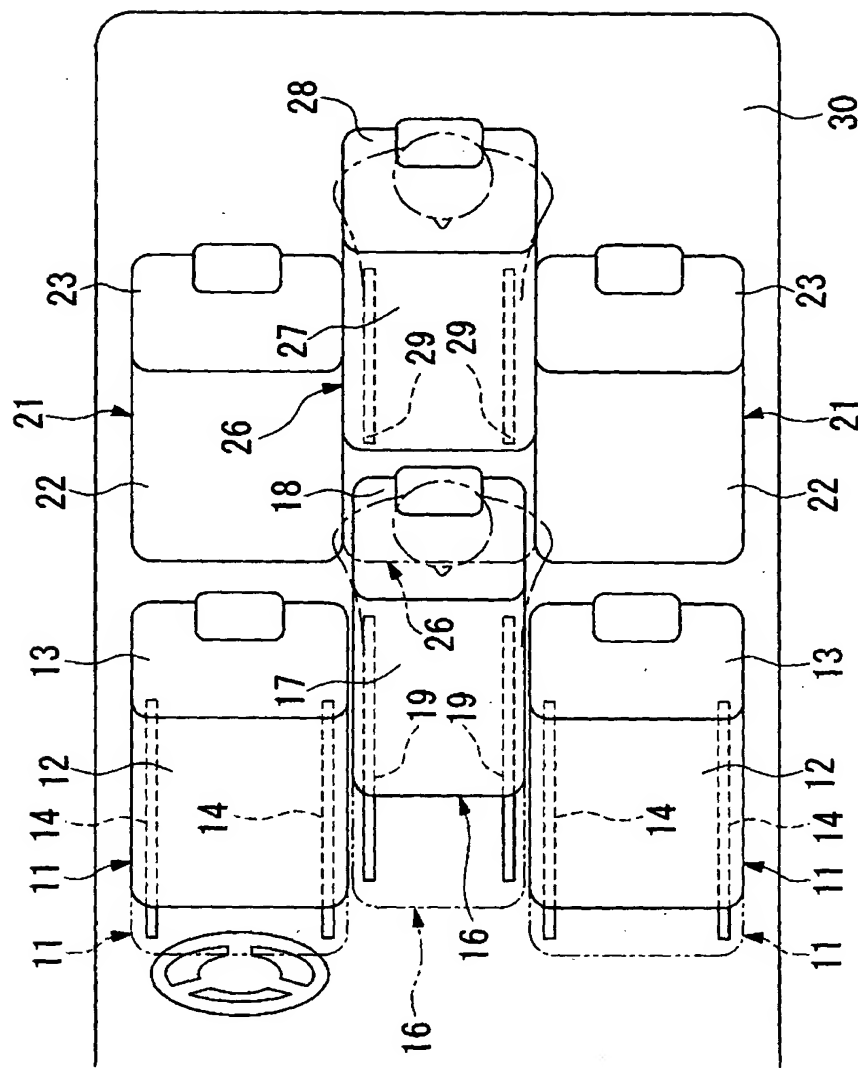
11 第1側部シート

- 1 6 第 1 中央シート
- 2 1 第 2 側部シート
- 2 6 第 2 中央シート
- 3 0 荷室
- 3 1 低位フロア（フロア）
- 6 6 逆 T 字状のフロア
- 6 7 逆 T 字状のスペース
- 7 1 前方に延長された逆 T 字状のフロア
- 7 2 前方に延長された逆 T 字状のスペース

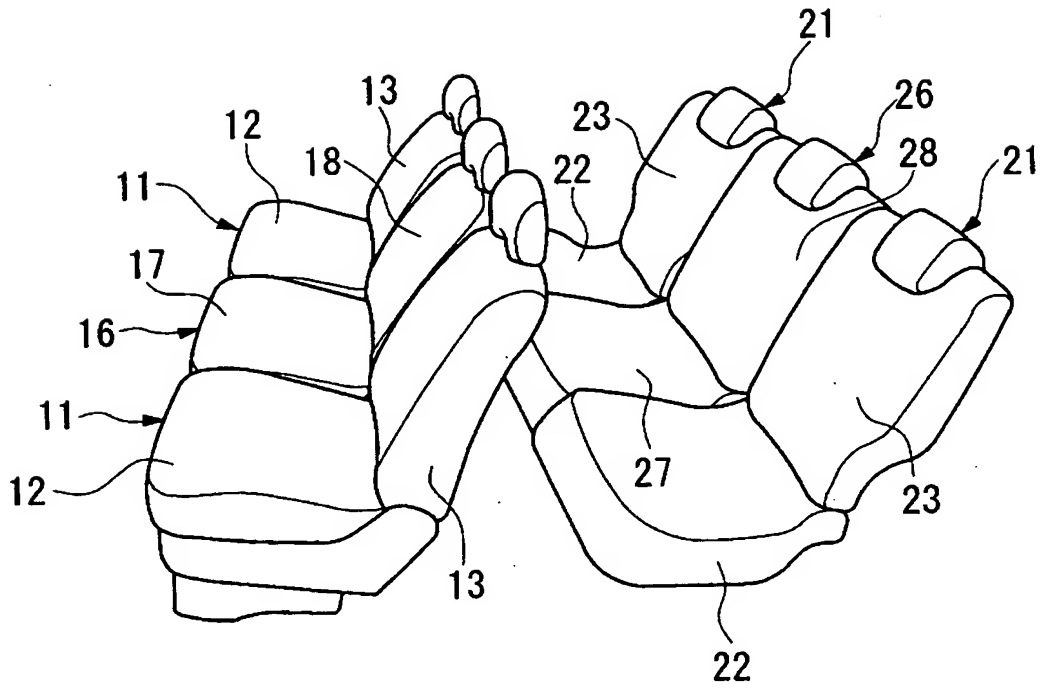


【書類名】 図面

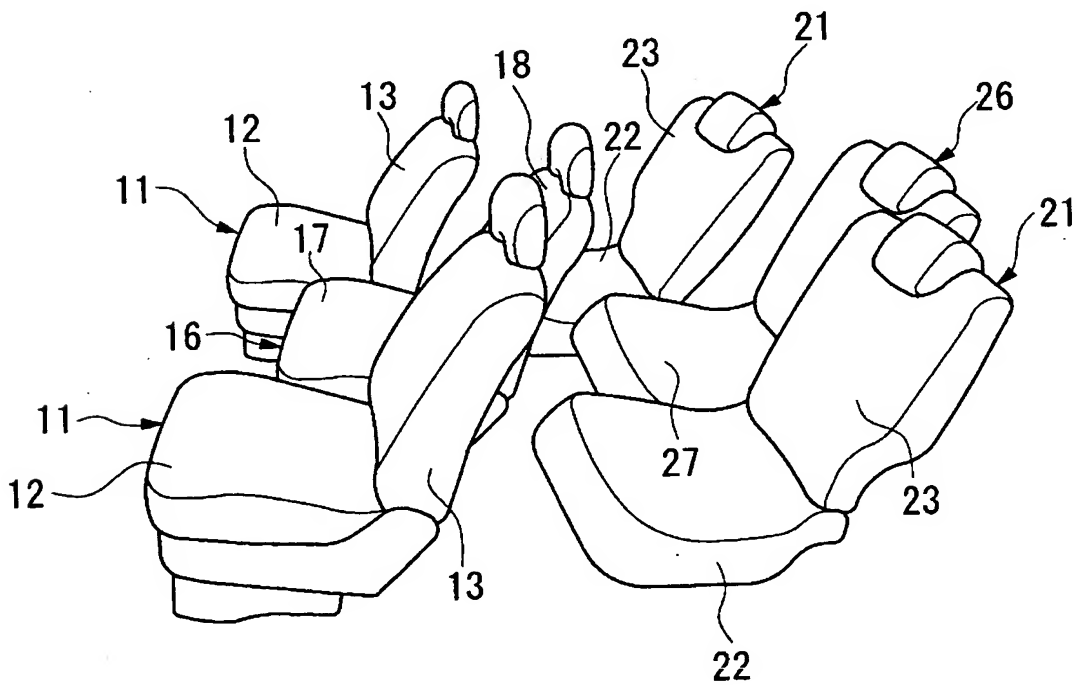
【図1】



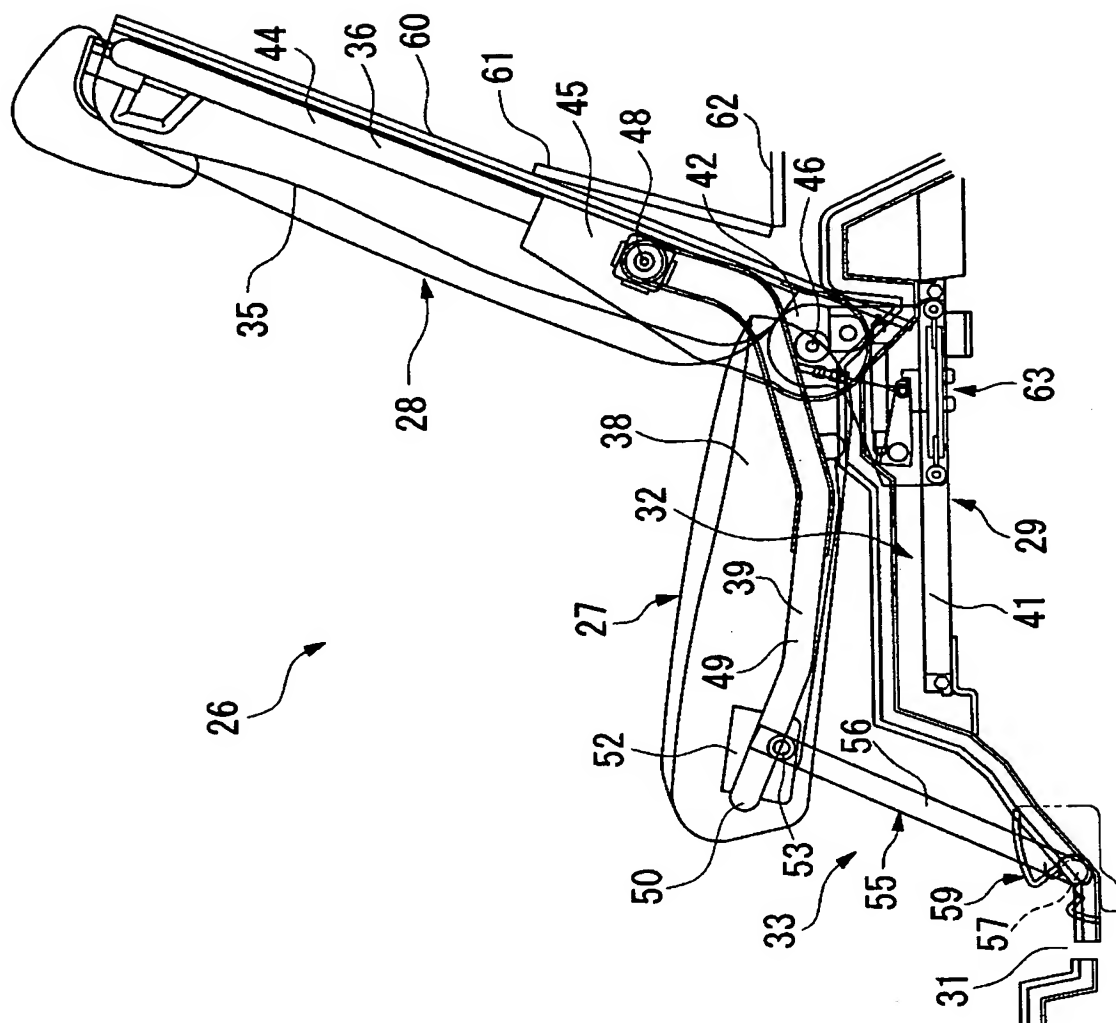
【図 2】



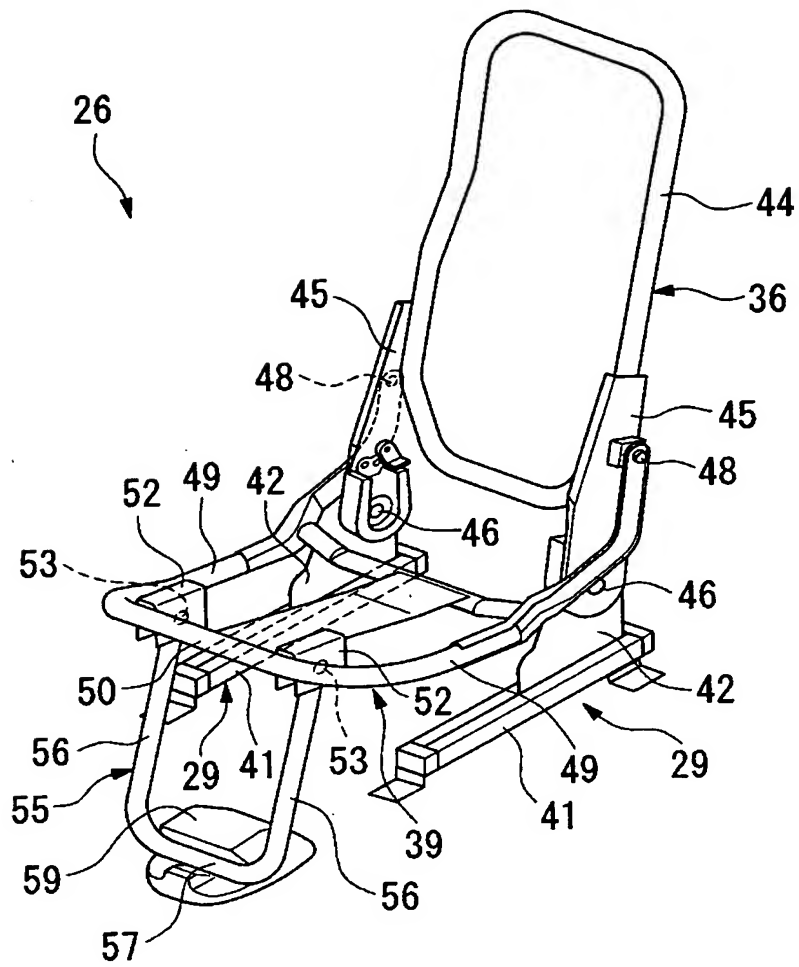
【図 3】



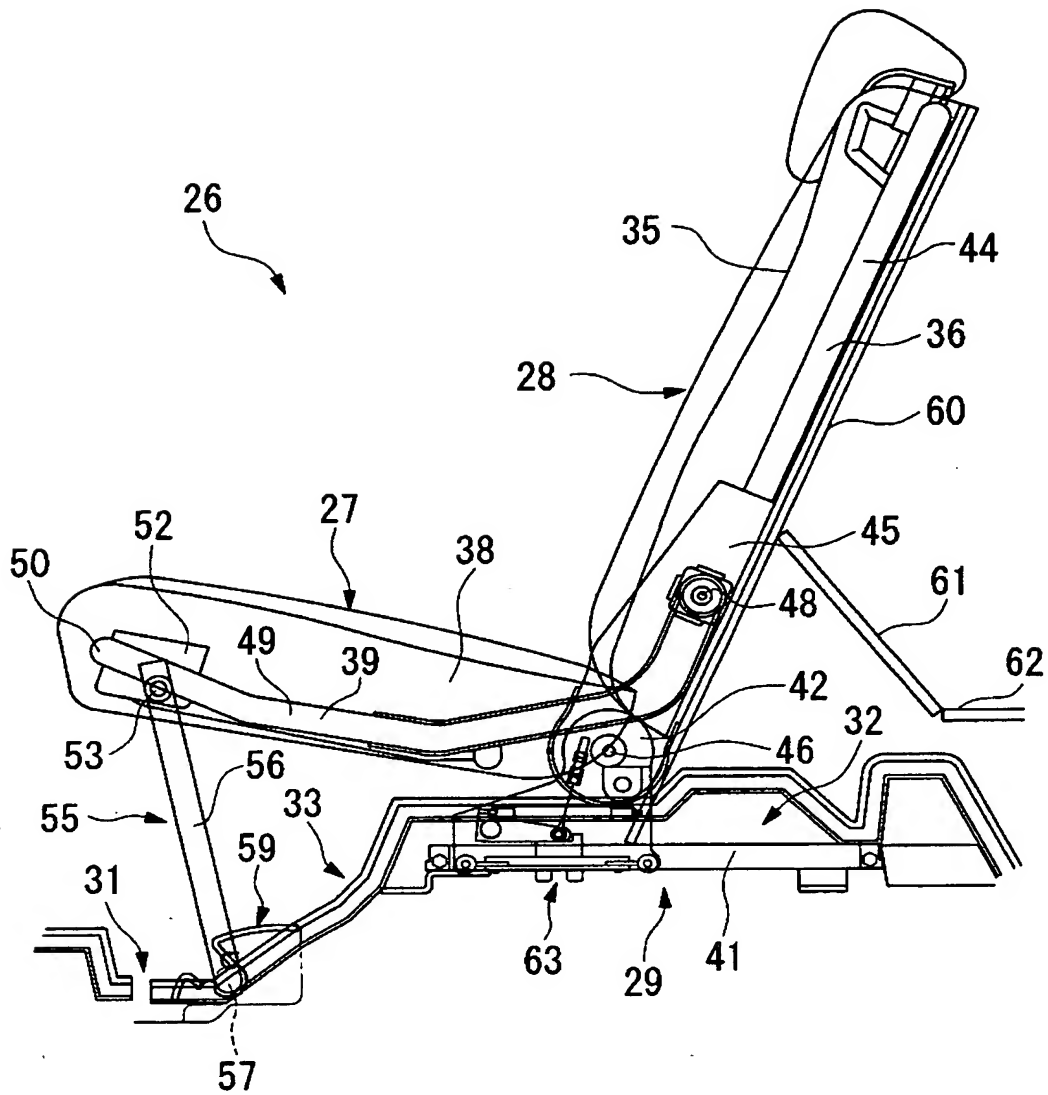
【図 4】



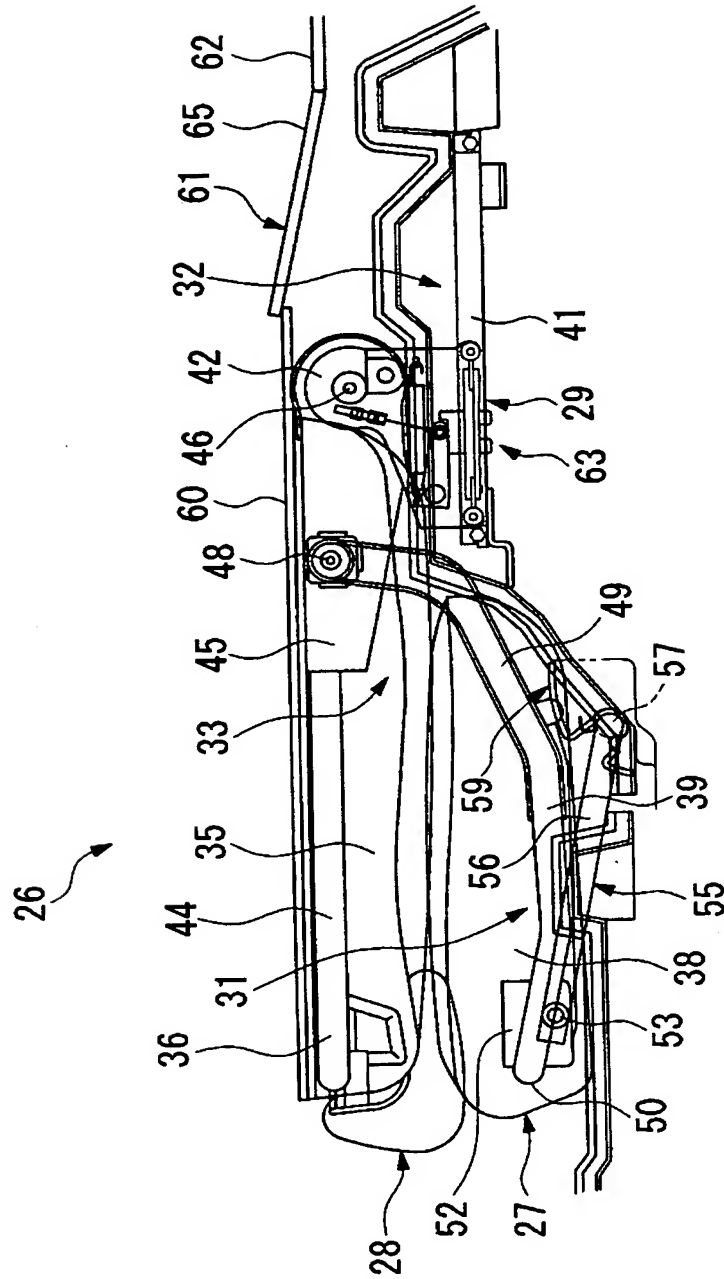
【図 5】



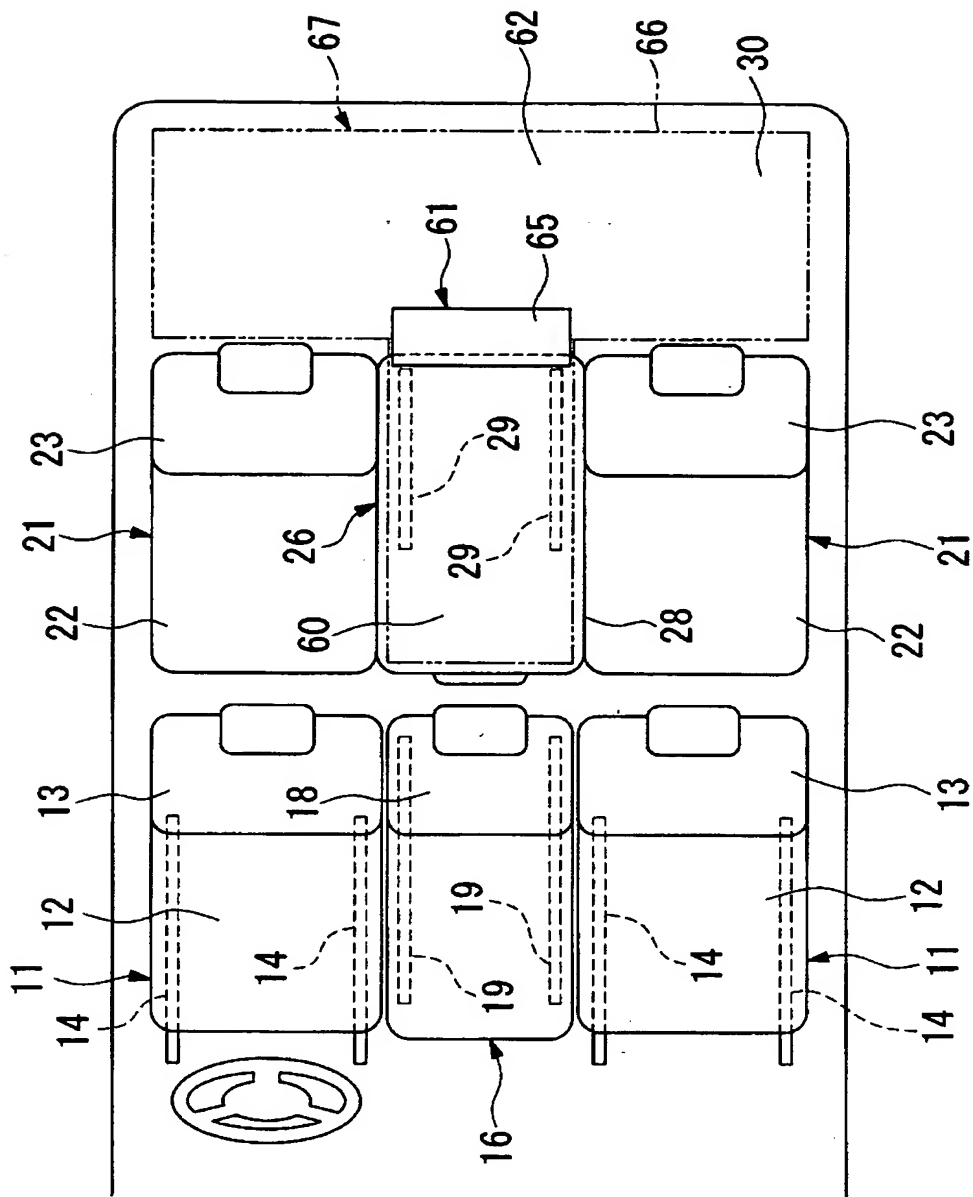
【图 6】



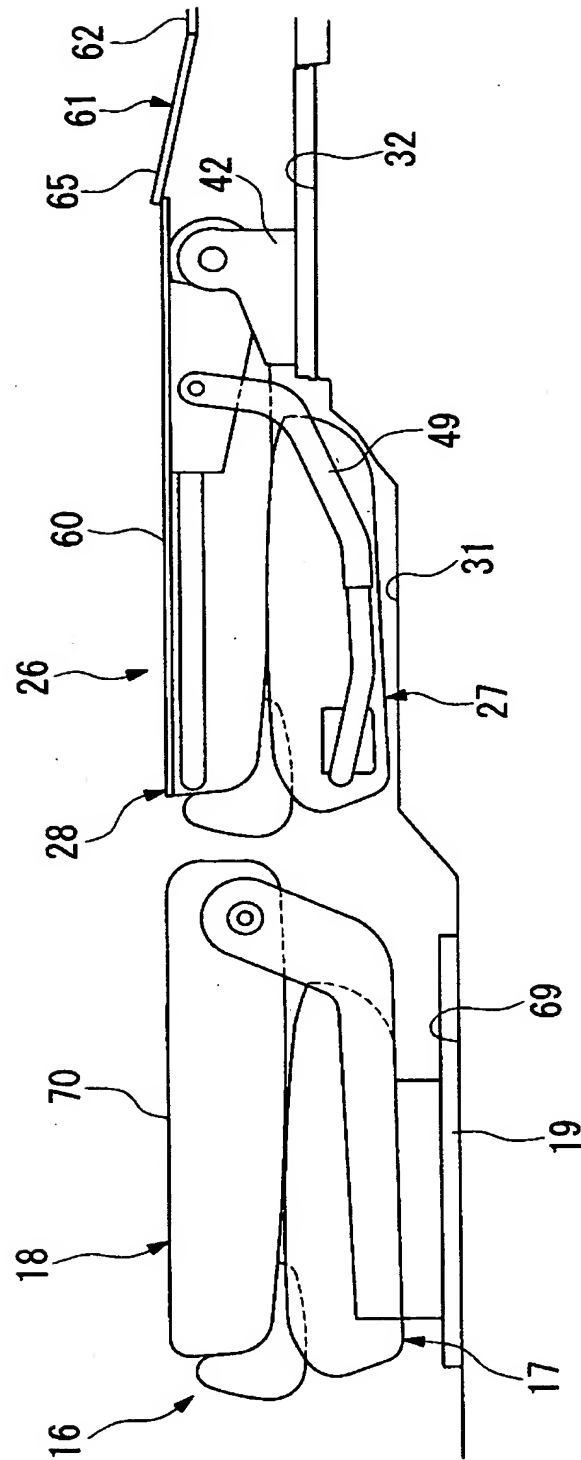
【図7】



【図 8】

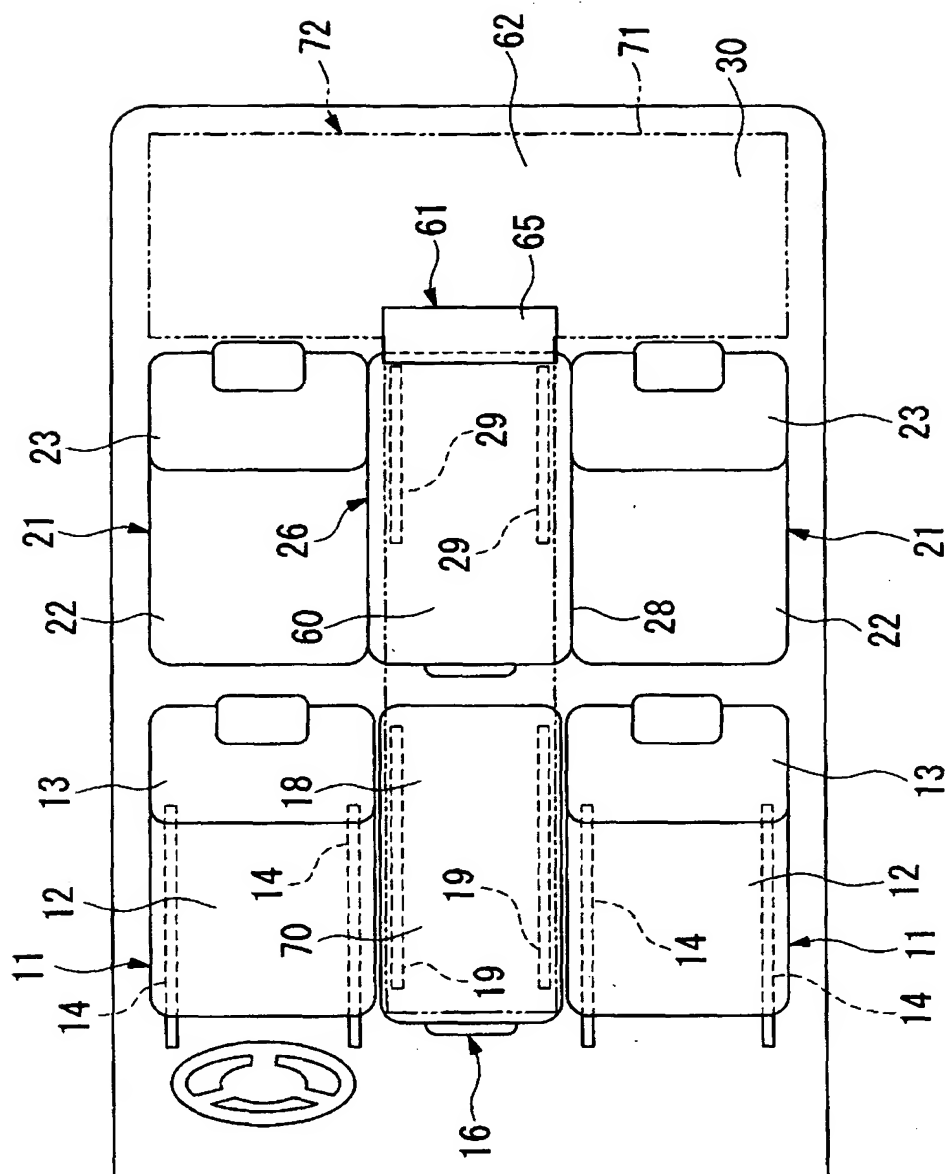


【図9】





【図10】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 運転者が運転しにくくなることを防止でき、少人数乗車時の座り心地が犠牲になることも防止できて、確実にV字状のレイアウトが可能となる車両用シート配列構造の提供。

【解決手段】 第1中央シート16が一对の第1側部シート11と前端部同士を合わせた位置から後方範囲でのみ前後スライド可能とされ、一对の第1側部シート11が第1中央シート16と前端部同士を合わせた位置から前方範囲でのみ前後スライド可能とされており、第1中央シート16の幅は第1側部シート11の幅よりも狭くされている。

【選択図】 図1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2002-273351
受付番号	50201404087
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0093
作成日	平成14年 9月20日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】	000005326
【住所又は居所】	東京都港区南青山二丁目1番1号
【氏名又は名称】	本田技研工業株式会社
【代理人】	申請人
【識別番号】	100064908
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	志賀 正武

【選任した代理人】

【識別番号】	100108578
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	高橋 詔男

【選任した代理人】

【識別番号】	100101465
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	青山 正和

【選任した代理人】

【識別番号】	100094400
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	鈴木 三義

【選任した代理人】

【識別番号】	100107836
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル 志賀国際特許事務所

次頁有

認定・付加情報（続き）

【氏名又は名称】	西 和哉
【選任した代理人】	
【識別番号】	100108453
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	村山 靖彦

次頁無

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 0 0 0 0 0 5 3 2 6 ]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 9 月 6 日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都港区南青山二丁目 1 番 1 号
氏 名	本田技研工業株式会社